

まほろば秦野通信

令和6年9月19日

タイトル	～ 秦野にゆかりのある陶芸家・三浦乾也の業績を紹介 ～ 本町公民館自主事業「尚古園焼(しょうこうえんやき)」の展示
When (いつ)	9月27日(金曜日)まで
Where (どこで)	秦野市立本町公民館 1階ロビー (館長:佐藤正男 住所:入船町12-2)
Who (だれが)	秦野市立本町公民館
What (なにを) How (どのように)	市内出身の郷土史研究家・三武英行氏の協力を得て、三武氏が所蔵する、明治初期の陶芸家・三浦乾也の作品などを展示し、秦野の偉人・三浦乾也の足跡を広く紹介します。 【展示内容】 三浦乾也が製作した陶芸作品29点、三武氏著作の研究書など書籍26冊を展示し、三浦乾也をはじめ、乾也を秦野に招いた梶山良助の業績などを紹介。 【三浦乾也プロフィール】 三浦乾也(1821～1889年)は、5代目尾形乾山に作陶を、谷文晁に日本画を学び、幕末に仙台藩で鉦山・鉦物・陶芸を指導し、藩内に高炉を建設。明治2年に梶山良助の招きで十日市場(本町四ツ角)に築窯し、「尚古園焼」を製作するとともに、国産初の通信用碍子(インスレーター)を開発した。乾也は明治5年に秦野を離れ、明治10年には曾屋村の大火で尚古園は消滅した 【三武英行氏略歴】 郷土史研究家。埼玉県志木市在住。昭和28年秦野市曾屋生まれ(三浦乾也が来た尚古園は生まれた場所の近く)。戦国時代から明治期まで曾屋村は十日市場と呼ばれ、十日市場の名主であった三武家の分家の末裔。三武家のルーツを40年以上調査し、人間国宝加藤卓也氏と出会い陶器に興味を持ち、ラスター彩磁器の研究で、イギリス・スペイン・イタリア・イランを訪問。その研究が三浦乾也研究にも生かされている。
Why (なぜ)	9月7日(土曜日)に本町公民館で、「NP0法人秦野歴史おこしの会」が三武氏を講師に迎え「十日市場の偉人・三浦乾也と光西上人」をテーマとした講演会を開催したため。
問い合わせ	本町公民館 担当:佐藤 電話:0463(84)5100